

# かがやく瞳

No.9号

発行日 令和元年8月30日  
発行責任者 豊福猛  
編集 社会福祉法人  
北見福祉会広報委員会  
〒090-0835 北見市光西町178-5  
TEL 0157-57-5057  
FAX 0157-57-4767

しょうぶな体の子ども ゆたかな心の子ども のびのび遊ぶ子ども

7月に入り、梅雨前線の影響で発生した線状降水帯が原因の集中豪雨により、九州南部では大きな被害が出ました。地球温化による異常気象が要因とされていますが、このような気象が、各地で繰り返し続くことにより、「異常」の文言が消えてしまうのではと考えると、大きな不安を感じます。被害を受けた地域では、豪雨に耐える堤防の建設などの対応は取られています。地球環境を根本的に改善する取組ではなく、このまま温暖化が進むことも懸念されます。子ども達が大人になった時、また、ずっと先の地球を考え、地球環境を守る必要性は、何年も前から世界中の各国で叫ばれています。

## 認定こども園の教育 教育推進の基盤は

「かがやく瞳」の8号では、北見福祉会認定こども園の、目指す子ども像について説明いたしました。今月号は、子ども像の実現や、幼児教育界の目的である「生きる力」の基礎を育てるための、教育・保育（以下教育と記載）の内容についてお知らせいたします。

平成30年度から幼児教育・保育施設（幼稚園、認定こども園、保育園等）では、同じ内容の教育が行われるようになりました。その内容等は、0歳児（乳児）、1～2歳児、3歳児以上に分け示されました。ここでは、満3歳以上の教育の内容について説明します。内容は5領域で示され、それぞれに「ねらい」を設定しています。具体的にどのような力を身に付けさせたいかを、より分かりやすくするために、福祉会こども園では指標として、キーワードの項目を設けています。



実際の指導は、3園で作成し共通で使用する年齢ごとの年間、期別の目標、また、各園で作成する月ごとの5領域の年間指導計画により進められています。

| 5領域  | 教育及び保育のねらい（各領域の指標や内容）  |
|------|--|
| 健康   | 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養う   |
|      | 指標 生命の尊重 体力など強い心身 健康な生活 安全への意識 正しい食生活                                  |
| 人間関係 | 他の人々と親しみ、支え合って生活するために自立心を育て、人と関わる力を養う                                  |
|      | 指標 他への思いやり 自分への振り返り 自主・協同 道徳心、礼儀 基本的生活習慣                               |
| 環境   | 周囲の様々な環境に関わり、好奇心や探究心を高め、考えたり新しい物を発見したりする力を養う                           |
|      | 指標 施設、自然、地域環境との関り 探求心、思考する意識   |
| 言葉   | 経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う |
|      | 指標 語彙数 思いを伝える会話の楽しさ 文字や数字などへの関心 聞く、聞き取る力                               |
| 表現   | 感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする                   |
|      | 指標 模倣を楽しみながらの身体表現 簡単な打楽器等 絵画、粘土、工作などの制作                                |

幼児施設の教育推進の基本は「教育と保育を一体的に進める。」こととなっています。「一体的」を簡単に言い換えれば、集団生活も遊びも、散歩も給食も、すべてが教育の場になり得ることになります。とりわけ子ども達の自由遊びは、楽しみながら試したり、繰り返

## 教育の進め方は



したり、新たな方法を考えたり気づいたり、さらに、できるようになった満足感を味わったりと、何にも勝る学びの場になります。

このように、こども園の教育は、教えて分かることを増やしたり、練習をさせてできるようにしたりするのではなく、自分たちの主体的な取組（遊び等を中心に）を通し、成功感や達成感を味わう中で、豊かな心情を育てたり意欲や関心を高めたりすることと言えます。そのため保育教諭は、子ども達の興味や関心を的確に把握し、意図的に話しかけたり、見せたり気付かせたりすることを、絶えず意識しています。

**評価は** 教育には評価はつきものです。教えてできたか、分かるようになったかの評価は簡単ですが、こども園の教育は意欲や心情など、【非認知能力】を育てることを大切にしているため、評価は容易ではありません。でも、子ども達の日常の何気ない姿や言動、また、小さな成長に気づくことにより、評価は可能になります。

※5月に祖父母と「よもぎもち交流会」を開く、Mこども園の通信から。

年長組の子ども達が、河川敷に散歩に行ったとき、先生が10cmくらいのヨモギを見つけたので、「ヨモギ餅の時に入れた草だよ。」と子ども達に話しました。みんなで見たり、匂いを嗅いだりしました。少しすると「ヨモギがあった！」と、子どもの声が聞こえてきました。ヨモギを実際に手に取り見たことで、子ども達は、次から次に、今まで気にもしなかったヨモギを見つけることができました。

もっといい話は、この後。一人の子が「先生、テントウムシを見つけた！」と叫びました。手のひらにのったテントウムシを、何人もの子ども達が、顔をピタリくっつくくらい近づき覗いていました。複眼を通し、テントウムシには子ども達の輝く瞳は、どのように見えていたのでしょうか。

その後、他の子も「テントウムシがいた！」、「僕も見つけた！」、「ここにもいた！」。一人の子どもの小さな昆虫の発見が、他の子どもの「確かにテントウムシは、いる。」、「僕にも見つけることができるはずだ。」などの確信と探索への意欲を持たせ、また、見つけたときの満足感を味わわせ、さらに、テントウムシをじっくり見て昆虫への興味や関心を高めさせたとしたら、素晴らしいことと言えます。それは、自分たちの言葉や行動で学びを始めたり進めたりすることが、幼児教育から高等教育で求められ、以前にお知らせした【アクティブラーニング】の一つで、最も大切にされている学び方だからです。

子どもの探索心は、葉っぱの後ろにいた孵化したばかりのセミの成虫の発見にまでつながりました。長い間土の中にいて、やっと外に出てこられたことを話すと、しばらくセミを見つめてから、子ども達は、静かにその場を離れました。



教育の成果としての子どもの姿とは言い切れませんが、何となく成長した子どもの様子とは言えます。単に評価のためばかりではなく、良いところ、成長したところを積極的に見つけ、子どもに知らせ、満足感を味わわせることが、次の成長につながることは確かです。ご家庭でも、ポジティブに子どもの成長を捉え、子どもの心を育てていただきたいと思います。

### 各園での「こども達の様子」をちょっと紹介しましょう。

#### ☆☆夕陽ヶ丘認定こども園☆☆



##### 大きな大根ができました！

春に植えた大根。収穫してみるととっても大きく生長していました。4・5歳児クラスがそれぞれスライスして塩昆布でもみ、浅漬けにして食べました！5歳児クラスは大根の食べ比べもし、「部位」によって味が違うことを知ることが出来ました。

#### ☆☆光西認定こども園☆☆



7月27・28日にひまわり組の一泊キャンプがありました。今年はかっぱの「かーたろ」に誘われてカッパランドへ！そこで出会ったのはかーたろのお友だち「がぶりん」でした。子ども達は大喜び&大興奮。楽しいキャンプになりました。2日間仲間と力を合わせて過ごした子ども達はとってもたくましく見えましたよ。

#### ☆☆みなみ認定こども園☆☆



##### 【流しそうめん】

夏の恒例行事！子どもたちが楽しみにしている“流しそうめん”を食べました。めんつゆが入ったコップと、お箸を持つとやる気満々の子もたち。「上手につかめるかなあ〜」と心配していましたが、上手にキャッチ！きゅうりと、ミカンには苦労していました。(笑)なかなかお家では味わうことの出来ない流しそうめんに大満足の1日になりました。